

## German-Japanese Society for Orthopaedics and Trauma fellowship program 2024 に参加して

整形外科学教室 助教 若間 仁司 (2012 年入局)

### Introduction

2024 年 10 月、日独整形災害外科学会 (GJSOT) が主催するフェローシッププログラムに選出していただきました。私は筑波大学の菊地直哉先生とともに関節グループとして参加し、久留米大学の森戸伸治先生と同門の大保拓也先生は脊椎グループとして参加されました。3 週間のドイツ滞在において、臨床実習や学術交流を通じて貴重な学びと経験を得ることができましたので、ご報告いたします。

### Schedule of Our Fellowship Program

- |                                          |         |
|------------------------------------------|---------|
| 1. Klinikum Konstanz, Konstanz           | 10/7-11 |
| 2. B. Braun/Aesculap company, Tuttlingen | 14-15   |
| 3. University of Rostock, Rostock        | 16-20   |
| 4. DKOU 2024, Berlin                     | 22-23   |



フェローシップのスケジュール

### Klinikum Konstanz, Konstanz: 10/7-11

最初の1週間は、ドイツ南部のKonstanzに滞在しました。研修先のKlinikum Konstanzは年間2,000件以上の人工関節置換術を行う手術件数の多

い病院です。非常にエネルギッシュなOchs教授に指導していただきました。Ochs教授は1日に10件以上の手術をこなし、病院内を驚くほどのスピードで歩かれるため、病棟回診の際はついていくのが大変でした。私の専門分野である股関節手術においては、牽引手術台を用いたAMIS（前方最小侵襲手術）アプローチによる人工股関節全置換術を教えてくださいました。この経験は、私にとってAMISアプローチを本格的に習得したいという強い動機づけとなりました。帰国してからも引き続き本術式の勉強を続けており、今後の導入を計画しています。週末はボーデン湖周辺の散策や、本場のサウナでリラックスした時間を過ごすことができました。ドイツのサウナは非常に高温で、アウフグースイベント (Aufguss) も頻繁に行われていました。



左から私、Ochs教授、  
菊池先生（筑波大）



AMIS アプローチ



ボーデン湖



Therme

## B. Braun/Aesculap company, Tuttlingen: 10/14-15

2週目の序盤は、Aesculap 本社のある Tuttlingen を訪れました。ここで脊椎グループの先生達と合流しました。脊椎グループの一員である同門の大保先生と再会でき、非常に感慨深い瞬間でした。Aesculap 本社では歴史博物館、インプラント製造工場や開発施設などを見学する機会をいただきました。また、本社の product manager とインプラントの長期耐用性をいかに高めるか、患者満足度をいかに向上させるかの深い議論を交わすことができ、有意義で多くの気づきを得ることができました。Tuttlingen のサウナ施設も訪れました。ドイツ滞在中に訪れたサウナの中でも、この施設で体験したアウフグースは特に強烈で、忘れられない体験となりました。ぜひまた訪れ、再びこの挑戦をしたいと思っています。



Aesculap 本社での集合写真



product manager との対談



Therme

## University of Rostock, Rostock: 10/16-20

Tuttlingen での研修後、脊椎グループと別れ、ドイツ北部の Rostock へ移動しました。ドイツの最南端から最北端までほぼ丸一日かけての移動となりました。University of Rostock の Mittelemeier 教授は、陽気で親しみやすい方で、歓迎ディナーを企画し、日本語で greeting してくださるという心のこもったおもてなしをしてくださいました。この気遣いには深く感動し、不慣れな環境での疲れも自然と和らぎました。University of Rostock では、人工関節置換術、スポーツ整形外科、腫瘍外科など多岐にわたる手術を見学することができました。人工股関節全置換術は前外側（AL spine）アプローチで行われていました。また、peripheral-first アプローチによる股関節鏡手術も目にするのができ、大変勉強になりました。大学病院らしく、基礎と臨床研究の両方が活発に行われており、特に印象的だったのは若手医師たちの情熱と向上心でした。彼らは、国際的に意義のある新たな知見の創出に真摯に取り組んでおり、その献身的な姿勢は私にとっても強いモチベーションとなりました。夕方には歴史ある教会の訪問、インドアクライミング、そしてアウトバーンでのスリル満点のドライブ（時速 200km 超）など、さまざまなレクリエーションや文化体験を楽しむことができました。バルト海沿いにある Mittelemeier



Mittlemeier 教授



日本語のでの greeting

## 医局だより

---



AL spine approach



股関節鏡手術  
(peripheral-first approach)



Therme

教授のご自宅にも招待いただきました。Rostock の魅力を体現するような美しい住まいでした。Rostock 市内のサウナも訪れました。アウフグースは非常に熱く活気にあふれていましたが、水風呂がなくシャワーのみだったことはやや残念でした。それでも、現地のウェルネス文化を体験する貴重な経験となりました。

### DKOU 2024, Berlin: 10/22-23

最終週はBerlinに移動し、ドイツ整形外科最大級の学術集会であるDKOU (German Congress of Orthopaedics and Traumatology) に参加しました。Berlinで脊椎グループと再会し、心温まるひとときとなりました。DKOUでは演題を発表しました。新型コロナウイルスの影響で国際学会での発表機会が減り、久々で緊張しました。あの有名な元サッカー選手オリバー・カーン氏がゲストとして会場に登場し、握手の機会に恵まれました。彼の手は非常に大きく、「あれに合う手術用手袋は存在しないだろう」と思いました。また、サイン入りのサッカーボールを一つ、プレゼント用に聴衆に向けて蹴ってくれま

した。そのボールは私の正面に飛んできたのですが、残念ながら前に座っていた長身のドイツ人にインターセプトされ、受け取ることはできませんでした。もちろん、ベルリンでもサウナ施設を訪れました。



GJSOT symposium of DKOU



Mr. Oliver Kahn



Therme

### As a final remark

フェローシップを通じて、数多くの貴重な経験を積むことができました。出発前は英語に対する自信がなく、不安な気持ちもありました。しかし、実際に過ごした3週間はとても楽しく、あっという間でした。今ではドイツが恋しくなっています。このような素晴らしい機会を与えてくださった根尾昌志名誉教授、大槻周平教授、GJSOT関係者の皆様、本プログラムの準備をサポートしてくださった事務局の坂田麻里奈様、外来の代診を引き受けていただいた関節班の先生方に心より感謝申し上げます。また、旅をともにし、帰国後も“サウナ仲間”として接してくださっている筑波大学の菊地先生とAesculap社の中尾さん、脊椎チームの森戸先生と大保先生にも深く感謝しております。私自身、またドイツを訪れる日を楽しみにしています！